

平成31年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

福岡県立 春日 高等学校長 [印]

53

学校運営計画 (4 月)		評価(3月)		
学校運営方針	新しい時代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな人格を涵養するとともに、自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与する人間を育成する。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
昨年度は、「春日高校ランドデザイン」の定着を図ることに重点を置いた。「社会に開かれた教育課程」をキーワードに、自主的体験的な学習を組み入れることによって「志」「チャレンジ精神」「向学心」を培う目的がある。学校全体での認識としての方向性は共通認識が図られており、取り組みも積極的であるといえる。しかし、「学び」という視点から見ると、教員の「授業改善」こそが課題であると感じている。この課題を克服するために、教員研修の見直しや働き方改革を踏まえた業務に関する「意識変革」に取り組んでいきたい。	(1) 「春日高校五常」とおとして、人としての在り方生き方など豊かな人間性とたくましい心身の育成を図る。 (2) 学ぶ意義について考えさせるなど自主性を重んじながら「授業心得五行」を徹底し、確かな学力を育み、高度な知識・技能と多様な見方・考え方を身につけさせる。 (3) 部活動や学校行事のさらなる充実・活性化を図り、計画力・実行力・調整力と協調性を養い、自らの課題設定力・課題解決力を高めさせる。 (4) 新しい時代を切り拓く責任感を持ち、チャレンジ精神と向学心を基盤とする確固たる志を涵養し、リーダーシップとフォロワーシップを兼ね備えた春日生を育成する。	(1) 教師の率先垂範による「笑顔、挨拶、時間厳守、清掃活動など」凡事徹底を図る。 (2) 教育活動全般を通じて「自主的に取り組もうとする意欲やリーダーシップ、チームワーク、コミュニケーション能力」などの資質・能力を育ませる。 (3) 積極的な生徒観察により生徒理解を深め、強い信頼関係を築くとともに、いじめ撲滅や生徒のつまずきへの早期対応等に努める。 (4) 「主体的・対話的で深い学び」の学習指導法について、研究・研修を深め実践し、生徒の能動的な学習態度を育む。 (5) 生徒の最大のフォロワーである教職員として、信頼関係に基づく個に応じた指導や支援を的確に行い、常にその組織力を高めつつ生徒の育成にあたる。 (6) 積極的な広報活動に努めるとともに、中学校・大学や地域との連携を推し進め、「社会に開かれた教育課程」を強く意識した春日高校のブランド化を図る。		
評価項目	年度重点目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務課	教育環境を整備し、学習支援体制を強化する。	生徒の希望進路や学習状況に応じた教育課程・教務規程・教務内規を検討する。 時間割の作成、変更、運用を丁寧に行い、日々の授業実践を支える。 時間割や成績処理システムのスムーズな運用を心がけ、情報管理課との協力体制を構築する。 「主体的・対話的で深い学び」を支援できる教育環境の整備を進める。		
	生徒の学力向上における指導の充実を図るとともに、生徒のチャレンジ精神を育成する。	「心視の時間」を軸に、キャリア教育課や各学年との連携を図り、生徒の進路意識を高める。 成績通知や成績上位者の掲示をとおして、生徒の自信や向上心を刺激し、自主的学習態度を育成する。 委員会活動を活用し、生徒の自主的な学び、積極的な行動力、広い視野の獲得を支援する。 生徒に活動の場を提供することで、自尊感情や自主性の向上を目指す。		
	生徒の生活習慣や実態を把握し、学習習慣の定着を図る。	教員に生徒の出欠状況を提示することで、体調管理や時間厳守の指導を支援する。 部活動生徒の成績など情報の共有化を図り、文武両道の実践を支援する。 生活時間調査を年2回実施し、生徒個人が学習習慣の改善に繋がられるように支援する。		
企画 広報課	生徒が主体的に活動できる式典や諸行事の企画・運営を行う。	式典や諸行事において、男女混合に伴う様々な課題を検討する。 防災避難訓練において、地震と火災を想定して訓練にあたり、消防署からの講評や実演をいただけるよう計画し実施する。また、可能な限り生徒には情報を与えずに実施する。		
	積極的な広報活動に努め、中学校・大学や地域に対して、本校の魅力を伝える。	中学生や中学校PTA訪問において、教務課と連携を図りながら受け入れを行い、学校説明・校舎案内・授業見学を通して十分なアピールができるような準備や計画をもとに実施する。 中学生の体験入学において、実施方法や実施場所の検討を早期に行うとともに、「中学生との交流会」をさらに充実させる。 学校行事ポスター等を本校生徒に中学校へ持参してもらうよう計画する。 学校行事に関するポスター等をグラウンド横フェンスに掲示し本校の魅力を伝える。		
	PTAや同窓会との連携を深め、両者の活動を全面的に支援し、本校発展に寄与する。	PTA主催行事(PTA総会、春日祭での出店・展示、視察研修、講演会、ぜんざい会)において、全職員で支援し協力する。特に、PTA総会やPTA講演会の出席率を上げる。 同窓会との連携を図りながら、学校の活性化に向けて協力体制を整える。また、同窓会総会の出席率を上げる。		
情報 管理課	各業務に関連するICTについて環境整備を図る。	業務効率向上に繋がるソフト・ハードを整備し、職員の負担軽減を図る。 メール配信とホームページ更新を一層活性化させ、校内での情報共有と校外への広報活動に資する。 ICTを用いた教育活動を推進するため、LANケーブルの延伸について前向きに検討する。		
	教職員のICT技術向上を図る。	ワード、エクセル等の主だったソフトウェアの使い方について、職員の要望に応じて助言を行う。 授業で使えるICT教材について、サーバーなどを通じての共有化を図る。		
	視聴覚教材の管理を徹底する。	電子黒板を含めた機材の貸し出しについて、ポータルサイトの運用を推し進める。 使い方の難しい機材については、使用法マニュアルを随時改善する。		

生徒部	生徒指導課	「春日高校五常」を意識させ、心を育てる。 (克己の心、素直な心、感謝の心、思いやりの心、公共心)	教師自らが率先垂範することにより、挨拶や時間厳守等を励行し、自主・自律の姿勢及び態度を身につけさせる。思いやりやマナーの向上に対する意識を高め、問題行動の未然防止に努める。					
			学校行事やホームルーム活動の充実・活性化を図るなかで、その目的や意義の理解のもと、企画・運営に取り組みせ、規範意識及び道徳心を育ませる。					
	生徒指導課	部活動や学校行事の集団活動を通じた帰属意識やリーダーシップ・フォロワーシップの高揚を図る。	生徒会執行部と各専門委員会と各部活動と機能的に連動させることで、生徒会活動の活性化を図るとともに、活動内容の広報を適宜行うことで帰属意識を高める。					
			学校行事等の企画・運営を生徒自身に行わせる等、自主的に取り組む意欲や創造する喜びを体験できるように工夫し、計画力・実行力・調整力と協調性を養い、自らの課題設定力・課題解決力を高めさせる。					
			部活動の充実・活性化を図り、加入率85%以上を目指すとともに、「心」の指導を充実させることで、本校発展及び愛校心発揚の核となる生徒を育成する。					
	生徒指導課	安全安心のホームグラウンドである学校を確保するための指導の継続と強化を図る。	「学校生活アンケート」等の有効活用による積極的な生徒観察や関係分掌との緊密な連携をとおして、いじめ撲滅や生徒のつまずきへの早期対応等に努める。					
			交通安全教育の工夫と徹底を図り、自転車通学生のマナーを向上させるとともに、非行防止・防犯教育・自己防衛教育を諸機関と連携して計画的に実施し、自他の安全確保と自己防衛力を高める。(生徒指導HR・学年集会の有効活用)					
	保健課	保健指導を適切に行い、健康問題への理解と関心を高め、自ら積極的に解決していく自主・実践的な態度を育成する。	健康診断・健康観察等をとおして、生徒が心身ともに健康的な生活を送れるよう指導する。					
			学校行事・ホームルーム活動・生徒会活動・部活動において、健康管理などの保健指導や安全指導を適切に行う。					
			学年会・生徒サポート委員会を通して、スクールカウンセラー・家庭訪問相談員・特別支援教育コーディネーターとの連携を高め支援体制の充実を図り、心の健康維持・増進に努める。					
掃除に対する啓蒙活動を充実させることにより、美化意識の高揚とエコ活動の推進を図り、環境美化に取り組む。		整美委員会の更なる活性化を進め、全校生徒の環境衛生・美化意識の高揚を目指す。						
		安全点検(A区分・B区分)を定期的に行い、安全で快適な学習環境を作る。						
		グリーンスタッフ活動(花運動・古紙回収)の充実を図り、環境に優しい学校づくりを目指す。						

進路部	進路指導課	情報の共有化、データ処理の簡素化・マニュアル化を推進し、進路情報の有効活用を広める。	①進路関係の文書・データの共有化および一元化			
			②データ処理の簡素化による迅速且つ正確な成績処理、進路資料の作成			
			③情報処理の課内研修会実施、および情報共有			
		必要に応じた進路資料の提供や、進路検討会、模試分析会等の企画・立案をし、全職員の進路指導力の向上を図る。	①進路執務室の体制作りと情報共有			
			②全職員への模試・学力テスト等の分析に必要な資料の効果的・適期な情報提供			
			③進路のしおり「春風」の内容充実・有効活用			
			④各学年における「進路便り」の発行			
		進路関係の行事や課外・模試の充実を図り、生徒の進学意識を高め、学力の向上を図るとともに、自主的に学習する態度を養う。	①学年ごとの進路説明会(コース説明会での実施を含む)の内容充実			
			②生徒の自主的な学習を促す課外・土曜活用講座の内容充実			
			③正課授業と課外・土曜活用講座の連携、および科目等検討			
			④進路資料室の環境・資料充実、生徒の有効活用			
		キャリア教育課	総合的な探究の時間や行事を通して、進路決定に必要な知識や能力を習得し、適正な勤労観、職業観を育成する。特に、3年間を通じた総合的な探究の時間の充実に向けた体制整備を図る。	1年生では、「ESD・SDGs探究」「大学探究」「ディベート」を通して、大学・社会と学問のつながりを意識させ、自分の進路について考えさせるとともに、聞く力、話す力、書く力を身につけさせ、豊かな人間性を持った生徒を育成する。		
	2年生では、「課題探究」を通して、身の周り・地域から地球規模の社会問題への関心を高め、調べる力、考える力を養い、大学・社会と学問のつながりを意識させ、自己の進路について考えさせる。また、ポスターセッションやプレゼンテーション等を通して、主体的に探究し発表する力や場に応じた適切なコミュニケーション能力を育成する。					
	3年生では、「小論文探究」「志望理由探究」を通して、進路決定について進路指導課と協力し、生徒の適正な勤労観を育成する。また、生徒が自己の進路目標を最後まで諦めず、高い志をもち、心身ともにたくましい生徒を育成する。					
	外部組織(春日市や小学校・中学校・大学等)との連携による活動を通し、生徒の進路意識を高めるとともに、自己の在り方、生き方や考え方を育む。		外部での体験活動等に積極的に参加させることで、興味深い学問の世界や様々なものの見方、考え方に触れ、自己の在り方を深く考えさせ、進路意識の向上を図る。			
		各学年にふさわしい講演会や講座を企画運営し、社会に対する意識や自己探求への意識の向上を図る。				
		オープンキャンパスの日程の通知など組織的に運営し、目標とする進学先への関心を深め、進路意識の向上を図る。				
		各学年・各学年・教科との連携を強化する。また、同窓会との連携も強化する。	各学年のキャリア計画が効果的な活動になるよう、各活動で反省記録を残し、生徒にとってよりよいものとなるようにする。また、参加した生徒が他の生徒に還元する場を設ける。			
			教科や分掌との連携を深め、生徒の活動が円滑に行われるよう支援する。また、上級大学への進学意識の高揚のために、関東圏ハイレベル研修の内容を充実させる。			
			同窓会と連携を深め、社会人講演会を通して、職業と学問のつながりや仕事のやりがいなど、今まで以上に生徒に興味・関心を持たせられるように講座数を増やしたり、内容を充実させたりする。			
		春日学術研究会(K.I.A.)の年間活動を通して、自己のキャリアアップに繋がる活動を計画的に行い、学びの動機付けを行う。	英語(A.E.)コースと理数(N.S.E.)コースに分けて、生徒の希望に沿ったきめ細やかな指導を行い、資格や検定を取得させる。。			
			外部キャリア形成事業に積極的に参加させ、その結果を学内生徒に還元させる。			

研修部	研修課	教員の意識改革に基づく授業改善の実施	授業改善による学校活性化という視点を全職員が堅持できる研修行事を企画し、有効な学習指導法の体得につながる校内研修を企画する。			
			校外研修や校内相互授業参観を推奨し、個々の学習指導の分析・改善に寄与する。			
			生徒による授業アンケートや保護者参観の有効活用により、各自の授業を客観的に分析できる機会を増やす。			
		「主体的・対話的で深い学び」の学習指導法の体得	研究紀要の充実を図り、授業改善に特化した取組の実践発表の場とする。			
			進路部との連携を強化し「主体的・対話的で深い学び」とともに、小論文面接指導の一助となる校内研修を企画する。			
		生徒の能動的学習態度につながる、授業の実践	学習指導法の体得に係る研究・研修を広く共有し、授業による学ぶ意欲の喚起につなげる。			
			教務、進路部と連携して能動的学習態度がもたらす効果を検証し、各自の授業実践を支援する。			
		若年教員のための研修の充実	若年者育成とともに、教育実習生の指導の充実を図ることで、後継者育成と学校活性化に寄与する。			
		図書課	学年に応じた読書を推進する。	オリエンテーションや読書、マナーに関する啓発活動を行い、図書館利用を促す。		
	選書委員会を活用し、教科の推薦図書や生徒の希望図書を把握し、適切で有用な選書を行う。					
	多読賞や読書感想文コンクール等を通して、読書活動を活性化し、豊かな感性を育む。					
	図書館行事の充実。		図書館行事や利用者への図書館サービス活動を通して、図書委員会によりよい図書館運営について考え、実践させていく。			
			読書会や読書週間行事等、図書館行事に一般生徒の参加を促し、読書に対する意欲を喚起する。			
	レファレンス機能を果たす。			教科・学年・分掌との連携を図り、探究的学習の場としての図書館利用を推進する。		
		進学・就職などの進路実現や人格的成長に関わる資料を充実させ、来館者の支援に努める。				
		学校図書管理システム(e-slip)や図書館だよりなどの広報活動を通して、蔵書の周知、活用を図る。				

1学年	「春日高校五常」の実践による基本的な生活習慣の確立	5分前行動・時間厳守の自覚を持たせる。 出席率99%以上、皆勤率50%以上を目指す。 清掃活動の徹底により、美化意識を向上させるとともに感謝の心・思いやりの心を育む。 場に応じた礼法の習得や爽やかな挨拶をととして良好な人間関係の構築に努めさせる。			
	自主的に学習する姿勢の育成	キャリア教育を通して高い目標を設定させ、努力を継続する意義を理解させる。 予習・授業・復習のサイクルの徹底により家庭学習の充実を図る。週1000分の学習時間を目指す。 自学自習の習慣づけとなる授業・課題への取り組みをととし、学力の定着を図る。 個々の目標に対してその到達度を評価し、適切なアドバイスにより次のステップへの行動を促す。			
	豊かな人間性の育成	部活動への参加を奨励し、心身共に健全な学校生活が送れるようにする。部活動加入率85%を目指す。 学年集会や学年行事における生徒自身による企画や運営の機会を設定し、リーダーシップを育む。 学校行事をととして準備力・実行力を養うとともに、チャレンジ精神を養う。 積極的な生徒指導により教師との良好な人間関係を築かせ、つまずきに早期に対応できるよう寄り添った指導を実践する。			
	想いを行動で表す行動力の育成	キャリア教育の充実を図ることにより、自己の適性についての考えを深めさせる。 学校行事や授業において協働による課題解決の機会や場面を設定し、コミュニケーション能力を養う。 仲間や教師との良好な信頼関係を構築させ、チャレンジ精神を発揮し行動できる環境を整える。 校外での研修会およびボランティア活動への参加を奨励し、多様な価値観に接する機会を設定する。			
2年生	「春日高校五常」とおとした人間性の育成	出席率の向上(99%以上)と皆勤200名以上を目指す。 挨拶、時間厳守、礼法を身につけさせ、良好な人間関係を築かせる。 清掃の徹底を指導し、環境整備と美化意識の向上を図る。			
	思考力・表現力の育成と学力の伸長	予習・授業・復習の学習活動を徹底し、基礎学力の定着を図る。 面談をととし、自己の学習課題を自主的に克服する態度を育成する。 授業における探究的な活動と言語活動の充実を図る。 課題探究活動を指導する中で、生徒の自発的で探究的な学びを進展させる。			
	目標を達成しようと挑戦する態度の育成	春日学術研究の活動を支援し、生徒の多様な力を伸ばす。 春日ハイレベル研修をととし、生徒の視野を広げ、将来の進路に発展性を持たせる。 課題探究活動の取り組みを、その後の学習活動や課外活動へ発展させる。 校外の学術研究やボランティア活動に積極的に取り組みさせ、高い志を持たせる。			
	心身の鍛錬と社会性の育成	部活動の取り組みを支援するとともに、先輩・後輩に対する良好な人間関係を築かせる。 学校行事や生徒会活動をととして、リーダーシップ・フォロワーシップを育成する。 教育相談と連携を図り、個々の生徒の様子を把握しておく。			
3年生	「春日高校五常」の実践により、社会で信頼される人物の育成	皆勤を意識させ、出席率99%以上、皆勤率50%以上を目指す。 教師の率先垂範により、明るい挨拶、時間厳守、清掃活動を徹底させ、社会で信頼される人物として、たくましさとともに豊かな人間性を育成する。			
	第一志望進路実現のための自主的学習の推進と「チーム春日」の実現	教員の授業改善を推進し、生徒の自主的体験的学習を授業に積極的に取り入れる。 学習時間の重要性を生徒に認識させ、平日3時間、休日5時間、週あたり25時間以上の学習時間を確保させる。 個人面談や個別指導を充実させ、生徒が自分で課題を解決していく能動的な学習態度を育成する。 進路情報の共有を職員間で活発に行い職員間の連携を強化し、AOや推薦などの入試にも対応できる体制をつくる。(難関大30名を含む、国公立大200名以上の合格者) 学校行事や部活動をととして、生徒の主体性を尊重し、リーダーシップ、チームワークなどの成長を促す。			
	高い志をもち、チャレンジする生徒の育成	高い志を達成するために、最後まで諦めずにチャレンジする生徒を育成する。 学校生活全般をととして、教師やクラスメイトとの信頼関係を構築し、自分の成長を実感させるとともに、チャレンジ精神を発揮できる環境を整える。			

	生徒の状況	本校の生徒は、まじめでおとなしい生徒が多い。しかし、思っていることを表現することが苦手な生徒が多いともいえる。また、スマートフォン等を使ったSNS等によるいじめ陰湿化は教員には見えにくくなっている実態がある。そのため、日頃の生徒観察、コミュニケーションや家庭との連携の必要性は大きく、その基盤となる教員との信頼関係の構築が重要である。そこで、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決のために以下のような具体的な対応をとるものとする。	評価	次年度の主な課題
いじめ撲滅に係る取り組み	1	早期発見のために日頃の生徒観察や月一回のアンケート調査等の分析を十分に行い、気になる状況がある場合は職員会議等を行い、早期に職員の共通認識を図り、生徒への対応、保護者への説明と観察依頼等を行い早期の対応・解決を図る。		
	2	定期的に生徒サポート委員会や担任会等を行い、生徒の動態とともに学習状況等を確認している。その際に、いじめに関する観察結果や今後心配される事柄などを職員で共有・検討し、生徒観察の強化や臨時的個人面談を実施するなどの方策をもっていじめの防止等を心がける。		
	3	定期または臨時に個人面談を実施し、生徒の状況や意識の変化を観察するとともに、友人関係の変化等を聞き取り、いじめ防止に関する情報収集の一助とする。		
	4	各学期の終わりには保護者面談(年2回)を実施し、長期休暇中の生活について注意を促すとともに、いじめに関する保護者アンケートや家庭におけるいじめ発見のきっかけ(家庭用いじめチェックリスト)などを説明し、気になることは学校(担任)に連絡をしていただくよう依頼する。家庭でのいじめ防止に関する意識の啓発と学校との素早い連携による早期発見、早期対応、早期解決を目指す。		
	5	教職員に対しては、年度の早い時期にいじめ撲滅のための研修会を計画的に行い、早期発見のための生徒観察のポイントや早期の対応の在り方などを研修する。また、最近増加傾向のネットによる誹謗中傷からいじめに発展した事例、更には自殺に発展した事例などを事例研究し、このような事例が発生しないための教育活動の在り方や発生した場合の考え方と対応についても十分に研修を行う。		
	6	授業中等に生徒の気になる言動等があった場合は、授業を中断して生徒の言動について考えさせるなどの積極的な指導を行い、教員のいじめ撲滅についての姿勢を伝える。		
	7	いじめに対する教職員の在り方については、被害者の視点に立つことを大前提とし、いじめを絶対に許さないことを生徒にも集会等の機会あるごとに伝え、学校としてのいじめ防止や撲滅に向かう意志を確実に伝える。		
	8	「学校いじめ防止基本方針」を研修会に活用し、共通認識を図った上で生徒の状況の把握を含めた生徒観察を行い、学校としていじめを許さない姿勢を常に生徒に伝える。		